

# 卓話

平成 19 年 12 月 18 日

## 『介護福祉に関わって』

クラシック音楽 Caracalla 主幹 声楽家  
近藤治子様

声楽家である私が介護福祉の世界に関わったのは、二年前、揖斐の老人ホームで父を亡くしたのがきっかけです。

私が 27 歳の時、50 歳だった母は末期癌のためにスパゲティー症候群で悲惨な死に方をしました。

父はホームにショートステイをしていて脳梗塞と癌の再発が見つかり、私はターミナルケアを選び一本の針を刺すこともなく、自然死に近い死に方で送ることができました。私が老人ホームの事を話すと大抵二種類の反応があります。一つは、「自分はそんな所には行かないぞ」二つ目は、「自分の親は施設になんか預けない」この二種類のバリアを感じますが、心配なさらずとも、いい環境のホームは三年くらい待たなくては入れません。老人ホームにも色々あります。病院のような個室、グループホームという共同住宅、一戸建てのセカンドハウス。父は家をバリアフリーに改修する間だけの約束で要介護の認定を受けグループホームにショートステイしていましたが、スタッフから認定が甘いから再審査を受けるように勧められ、結果介護 2 に変更されました。検査の人に問題行動を書いて渡すようにスタッフが教えてくれたのです。認知症が出ているのもスタッフは見抜いていましたが、一緒に暮らしていると分からないものです。

さて、10 月にオープンした岐阜シティタワー 43 の 3 階に、父がお世話になった揖斐のサンビレッジ新生苑が入る事になり、多世代交流スペースにグランドピアノを寄付された石原美智子理事長からの要請で音楽イベントをプロデュースすることになりました。このピアノが功を奏して、タワーの住人やデイサービス利用のお年寄りに生の音楽を楽しんでもらっていますが、音楽学生の演奏の場が増えた事も喜ばしい現象になっています。このフロアには美容院、歯医者、整体院、診療所、デーサービス、訪問看護ステーション、健康ダイニング、保育園そして全国初のホテル型有料老人ホームが 8 床入っています。値段を聞かれると驚かれますが、一泊 ¥37000～¥43500 でリハビリ、介護付きです。特に言語聴覚士による口からの食事摂取補助はターミナルケアの利用者に喜ばれています。退院したばかりで、自宅での世話が難しい人が何日か利用して、自宅に戻ったり施設を紹介されて移ったりしていらっしやいます。

容態の悪かった人が、コンサートの音を聞いてストレッチャーで出ていらした事がありますが、耳元で演奏してさしあげたら笑顔になって痛みが無くなったと言われ、音楽の力を感じました。タワーの住人は淋しくしていらっしやるので音楽の授業をしています。このスペースはどなたでも利用できますので、一度見学にいらして頂きたいです。